

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」 事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立 則松中 学校】

1 実践テーマ	I ・ III
2 実施対象者 (学年・人数)	則松中学校 ・ 1年生 160名 ・ 2年生 129名 ・ 3年生 148名 ・ 保護者・地域より 20名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 () ③ その他 (O)
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・ リオパラリンピック車いすテニス日本代表二條実穂氏の話聞き、競技用車椅子の使用体験をしたりすることにより、パラリンピック競技に興味を持たせ、東京2020大会に向けた機運醸成を図る。 ・ 車いすを使って生活する苦労や工夫を知り、体験を通して考え、障害をもった方たちとの共生社会について考える。
5 取組内容	<p>○リオパラリンピック車いすテニス日本代表二條選手の講演と体験学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障がい者となった経緯とその後の意識改革と努力の様子とリオパラリンピックでの活躍の講演会と、車いすの体験会を行った。 ・ 車いす体験会では競技用車いすを乗車しての競争と代表生徒とのテニス体験ゲームを行った。全校生徒を対象に二條選手の講演では、リオパラリンピックダブルス4位なるまでの苦労、チームとして助け合うことの大切さ、障がいを乗り越え活躍していくための努力について教えていただいた。 ・ 車いすの体験活動では、全生徒がコーンをターンしてのスピード競争と代表生徒によるゲームを体験し、その迫力や大変さ、そして面白さを学ぶことができた。ゲームでは、得点が決まるたびに全校生徒の大歓声がおき、大変盛り上がった。
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車いすテニスの体験を通して、競技の難しさを実感するとともに、障がいがありながらも巧みに車椅子を操作する選手の凄さを実感することができた。 ・ 全校生徒が、二條選手からたくさんのお話を聞いていただいた感謝の気持ちを代表生徒からお礼の言葉を述べ、二條選手からメッセージを記入した色紙いただいた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・障害をもった選手への尊敬の念を持ち、その心情の強さを感じ、生き方について考え、生徒自身の目標へとつなげることができた。
7実践において工夫した点(事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に生徒が体験できる場面や選手の動きを見る場面を取り入れ、ハンディキャップのある人の大変さを感じるとともに、障がいがありながらもアスリートとして活躍する選手の凄さを実感できるよう、場の展開を工夫した。 ・講演では、リオパラリンピック4位までの努力の様子やペアと一丸となって取り組む姿勢についての苦労話で、生徒たちにスポーツを通して助け合う心や努力の大切さ、障がいに負けない心の強さを実感してもらうように配慮した。 ・二條実穂氏の強い要望から、減多に乗ることがない競技用車いすを参加生徒全員に体験させることができた。
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・二條実穂氏は、以前から北九州市と交流が深いため、今後も、可能な限り北九州市内の小中学校に訪問して、講演会や車いす体験学習を子どもたちと行いたいと切望されている。 ・現在、二條実穂氏は、全国各地において講演活動を行っている。今後とも、直接メールや電話等で講演依頼をすることができるので、推進校での活用が大いに期待される。
9来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より、オリ・パラ推進校に指定していただき、取組を重ねる度に、オリンピック・パラリンピックへの興味、関心が高まってきている。 ・今後も、以下の重点目標を達成すべく、様々な取組を通して東京2020大会への機運醸成を図っていく。 <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ及びオリ・パラの意義や歴史の理解 ・海外からの客人をもてなすボランティア精神の育成 ・インクルーシブな社会の構築 ・日本及び世界の文化・伝統の理解 ・スポーツへの興味・関心の向上 ・SDGsの視点に立った、国際理解・環境教育の実践 ・大会開催後も、引き続き取組を推進していくことで、東京2020大会後に価値あるレガシーを残していきたいと考えている。